



同時発表：環境省

令和7年6月17日
水管理・国土保全局河川環境課

川の生きものを見つけよう！ ～令和7年度全国水生生物調査を実施します～

国土交通省と環境省では、川の生きものを指標として河川の水質を総合的に評価するため、地域の皆様のご協力をいただきて『全国水生生物調査』を実施しています。

令和7年度も、夏休み期間を中心に調査を実施しますので、是非ご参加下さい。また、令和6年度の結果をとりまとめましたので、お知らせします。

※開催日や場所等の詳細については、各地方整備局等又は各都道府県の環境部局までお問い合わせ下さい。

(問い合わせ先)

- ・各地方整備局等の窓口（一級河川国管理区間に関するもの）
http://www.mlit.go.jp/river/toukei_chousa/kankyo/kankyou/suisitu/toiawase.html
- ・各都道府県の環境部局（上記以外）
https://water-pub.env.go.jp/water-pub/mizu-site/mizu/suisei/etsuran/list_pref.html

【全国水生生物調査とは】

(1) 調査概要

- サワガニ、カワゲラ類等の川の水に住む生きもの（水生生物）が生息しているかどうかで水質を判定
- 子どもたちにもわかりやすく、特別な機材を用いないため、誰でも簡単に参加可能
- 身近な自然環境に接することで、身近な環境問題への関心を高めるきっかけ
- 昭和59年度から国土交通省・環境省が実施

(2) 調査方法

- 河川に生息する水生生物のうち、[1]全国各地に広く分布し、[2]分類が容易で、[3]水質に係る指標性が高い、29種の指標生物を調査
- 河川で水生生物を採集し指標生物の同定・分類を行い、地点ごとに、I（きれいな水）、II（ややきれいな水）、III（きたない水）、IV（とてもきたない水）の4階級で水質の状況を判定
- 下記国土交通省ウェブサイトでも本調査の紹介をしておりますのでご覧ください
<https://www.mlit.go.jp/river/kawanavi/enjoy/vol1.html>

(3) 調査期間

7～8月を中心実施



【令和6年度 調査結果概要】（詳細は別添をご覧ください。）

○参加者数・参加団体・調査地点数

令和6年度の参加者は 38,444 人（令和5年度 36,905 人）でした。

	参加者数	参加団体数	調査地点数
一級河川国管理区間	13,480 人	324 団体	372 地点
その他の河川※	24,964 人	725 団体	1,011 地点
合計	38,444 人	1,049 団体	1,383 地点

※一級河川都道府県管理区間及び二級河川等（一級河川国管理区間以外）

○水質判定結果

令和6年度は、全調査地点の 90% の地点で、I（きれいな水）又はII（ややきれいな水）と判定され、令和5年度（89%）より1ポイント高くなりました。

	一級河川	その他の河川	全調査地点
I きれいな水	68%	63%	64%
II ややきれいな水	28%	26%	26%
III きたない水	2%	4%	4%
IV とてもきたない水	0%	2%	2%
判定不能	1%	5%	4%

※四捨五入による端数処理のため内数の合計が 100% にならないことがあります。

※判定不能：指標生物が見つからなかった場合等

【問い合わせ先】

国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課

企画専門官 前田 裕太（内線 35441）

係 長 木村 ほのか（内線 35482）

TEL 03-5253-8111（代表）、03-5253-8447（直通）

環境省 水・大気環境局 環境管理課 環境汚染対策室

室 長 鈴木 清彦

室長補佐 野口 宏

担当 鍛冶 尚寛

TEL 03-3581-3351（代表）、03-5521-8314（直通）



令和6年度全国水生生物調査結果

別添

1. 参加人数及び参加団体数

令和6年度の参加人数は38,444人であった。

うち、一級河川※1は13,480人であり、その他の河川※2は24,964人であった。また、参加団体数は1,049団体で、うち一級河川は324団体であった。

参加団体別の参加人数は小学校での参加が最も多く、次いで各種団体、観察会の順番であった。

都道府県別の参加者数では岐阜県が最も多く、次いで岩手県、北海道の順番であった。

※1 一級河川大臣管理区間（以下「一級河川」と言う）

※2 二級河川・都道府県管理区間及び三級河川等※1以外の河川（以下「その他の河川」と言う）

参加者数の多い都道府県			
順位	都道府県名	参加人数	うち 一級河川
1	岐阜	4,248	0
2	岩手	3,595	111
3	北海道	2,952	2,917
4	鳥取	2,650	2,627
5	福島	2,083	34

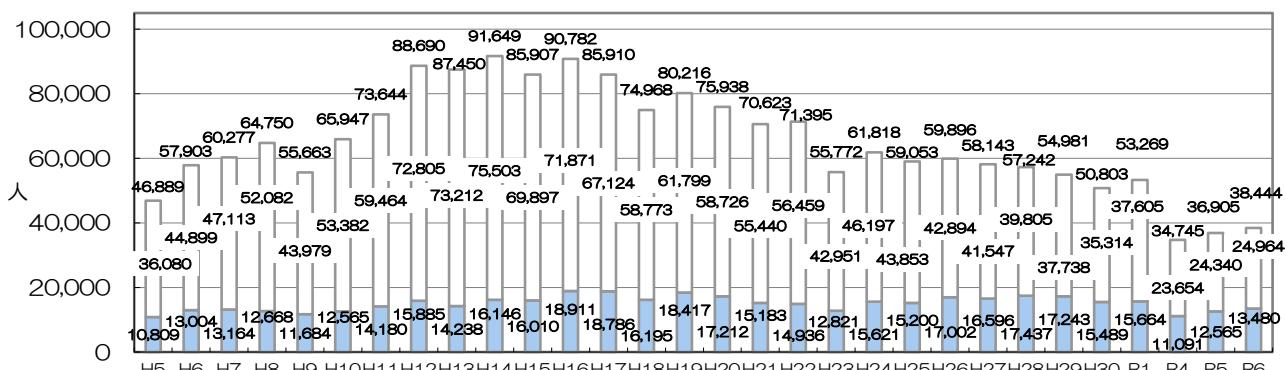


図-1 参加人数の推移

■一級河川 □その他河川

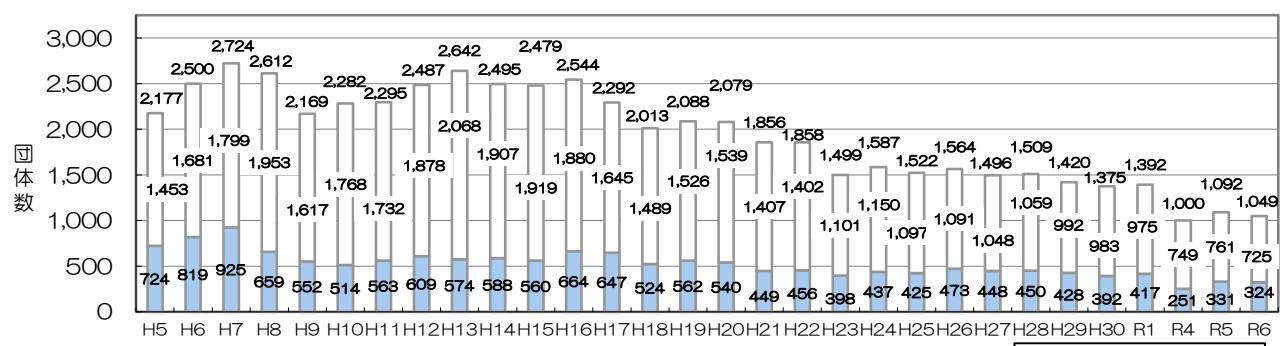
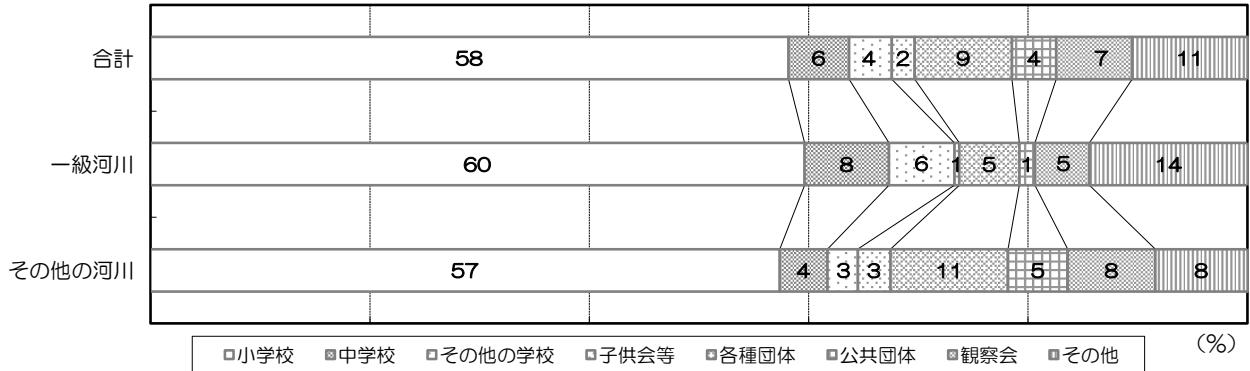


図-2 参加団体数の推移

■一級河川 □その他河川



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-3 参加人数の団体種類別構成比

2. 調査地点数

調査地点数は1,383地点であった。

内訳は、一級河川は372地点、その他の河川は1,011地点であった。

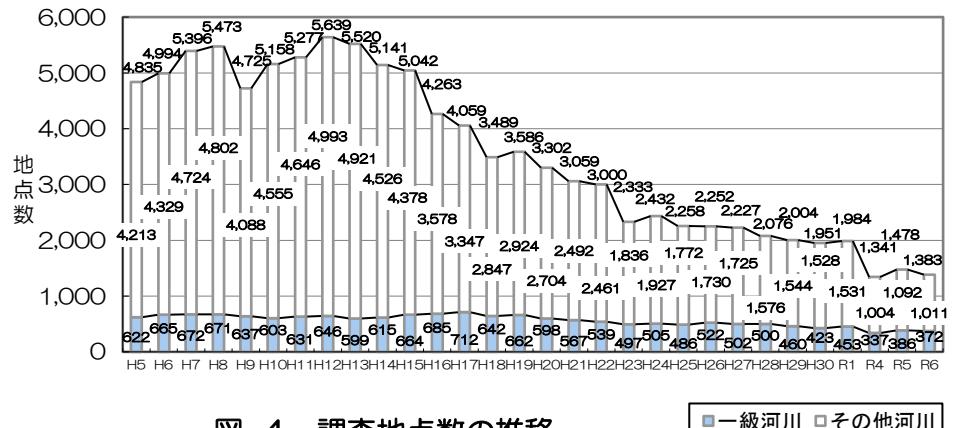


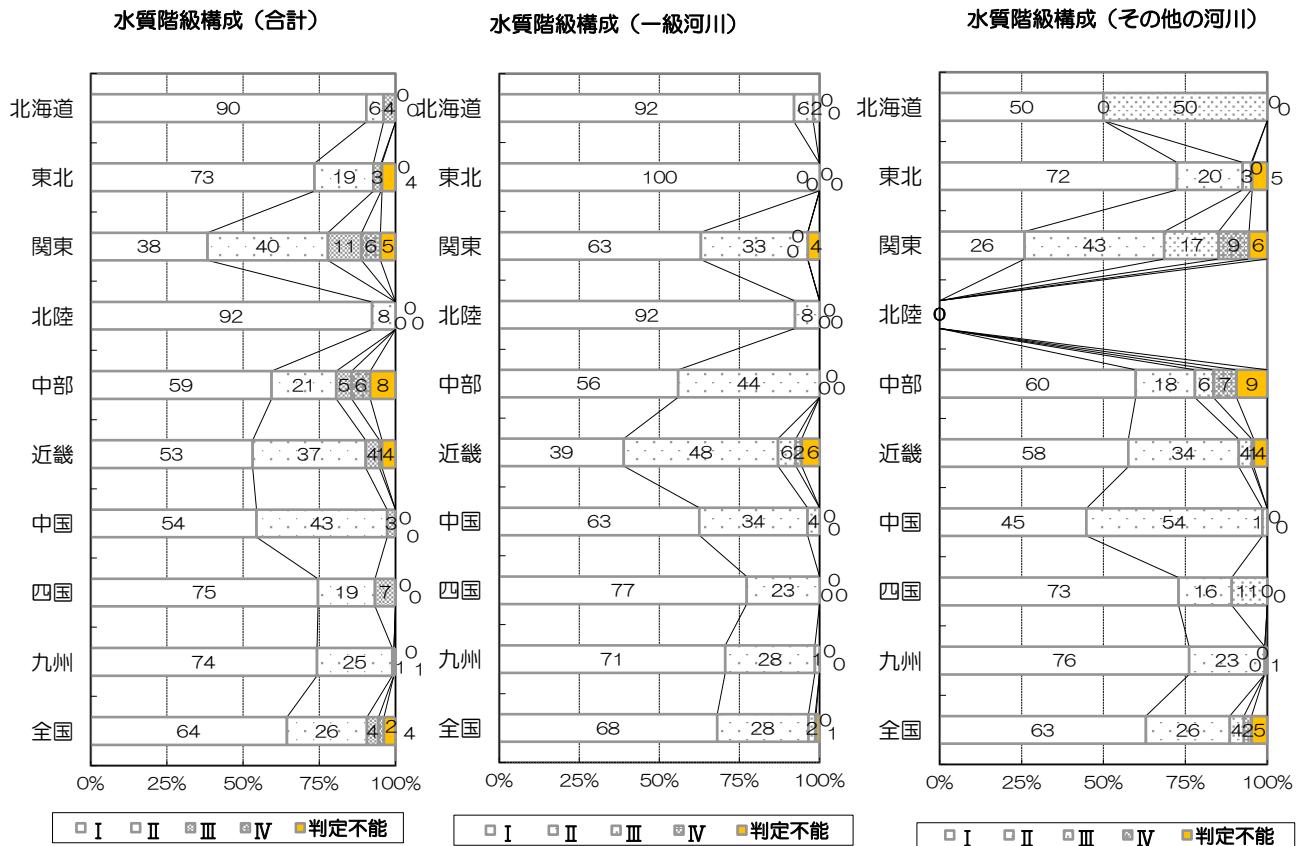
図-4 調査地点数の推移

■一級河川 □その他河川

3. 地域別水質階級構成（地域別の水質の状況）

本調査は、調査地点を参加者が任意に選定するため、我が国の河川の状況を正確に代表したものではない。しかし、多数の地点で調査されているため、全国の水質の状況を概括的に知ることができると考えられる。

令和6年度は、全国で水質階級I（きれいな水）と判定された地点が64%、II（ややきれいな水）が26%、III（きたない水）が4%、IV（大変きたない水）が2%であった。



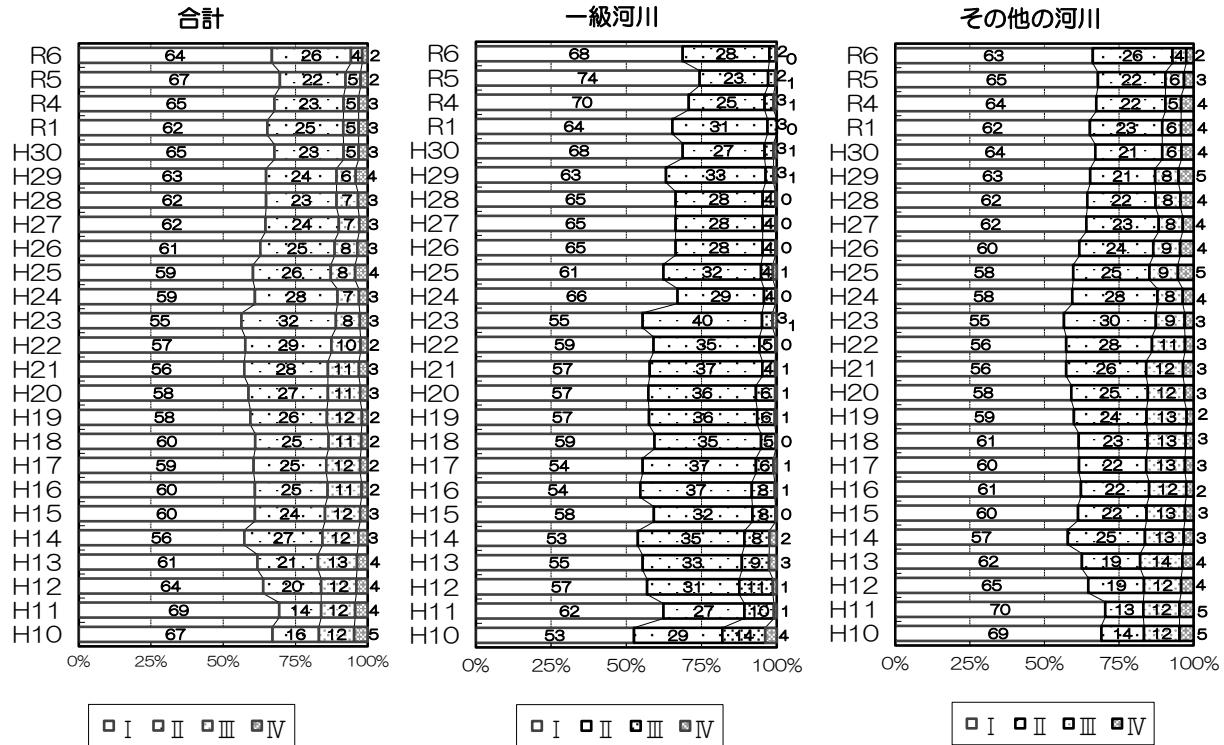
※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-5 地域別水質階級構成比

4. 水質階級構成比の年次推移

全国の全調査地点の水質階級構成比を図6に示した。
平成11年度をピークに、I（きれいな水）と判定された地点の割合は減少傾向にあったが、
平成14年度以降は55～65%前後でほぼ横這いとなっている。本年度は、I（きれいな水）と判
定された地点の割合は64%であった。

なお、年次ごとの調査地点については相違しており、必ずしも同地点を比較したものではない。

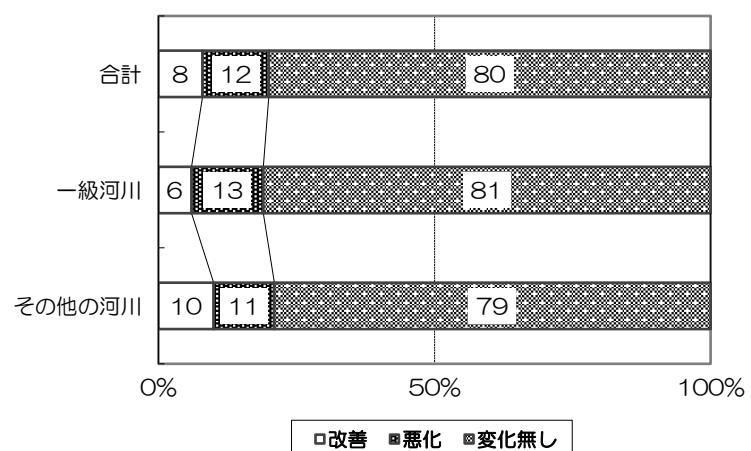


※1 判定不能地点の扱い及び四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。
※2 平成12年度から調査手法を変更しているため、平成12年度と平成11年度以前との厳密な比較はできない。

図-6 水質階級構成比の年次推移

5. 前年度（R5）との比較

前年度と同じ地点で調査された
761地点について比較すると、8%
の地点が改善、12%の地点が悪化、
80%の地点が同じ水質階級であった。



※四捨五入による端数処理のため内数の合計が100%にならないことがある。

図-7 同一調査地点での昨年度との比較